

SA 吹田 通信 第19号

2004年12月

発行 SA吹田 事務局 〒565-0821 吹田市山田東4-41-4-506

TEL&FAX 06-6876-1437

★国際交流活動「やまびこ」のちぎり絵づくり

森山 とし子(SA16期)

国際交流活動「やまびこ」は、日本語を知ろう、学ぼう、お話しようをモットーに交流活動が続けています。12月8日は第8回目になりました。この機会に少し習った経験をたどりながら、ちぎり絵作りの伝統的な和紙工芸の楽しさをお伝えしようと思いました。外国の方にどう受け止められるか心配でしたが、誰でも出来る易しさと出来上がりの楽しさがあると、自信を持って北千里公民館へ行きました。時間の関係で、鉛筆書きを省いて、私が型どりを事前に準備しておきました。いよいよ始めてみると、うまく運ぶかなとの心配も吹き飛び、和やかに始まりました。会場では切り絵線にそって、ちぎり絵を作成する方法をとりました。和紙の種類やぼかし模様等によって、大きく変化する楽しさと、和紙の繊維と色彩模様で自己流の絵が出来る、ちぎり絵の面白さを伝えることが出来たことが本当に嬉しく思いました。初めて材料を手に取り来年の干支の鶏の制作見本を手本にして、器用な手つきで制作している姿に感心させられました。制作上での真剣な応答の中で進められてゆく、出来映えも初めてとは思えない飾り絵に仕上がりました。外国人の方々も完成した手づくりの面白さと、初めて体験したちぎり絵の楽しさに喜んでおられました。部屋のどこかに飾っていただけかなと思っています。短い時間に少しの手ほどきでしたが、心の喜びを和紙で手近に表現していただく、手軽な工芸として、皆様のご協力を得てお伝えできましたことで感動しています。

◆喜びとともに、人生の財産をいただいております

岡田 隆 (SA7期)

☆ボランティアの動機・・・ 定年後は、目立たずともよい、社会に貢献することが出来ないかと考えておりました。幸いにも平成6年、大阪府のシルバーアドバイザー養成講座「福祉ボランティア専攻」で勉強させていただきました。今後も高齢者の生活の質を高める活動に少しでも貢献できればと願っております。

☆趣味・特技は・・・ 書道・アマチュア無線・カメラ・カラオケ

☆人生訓・座右銘・・・ 「一期一会」を念頭におき「前向きにやる・まだまだ・無理をしない」を目標に。

☆その他・・・ 恩師寺島先生に「歌体操」のご指導を賜り（現在も教室に通学中）、平成7年から先輩について活動を開始、現在も皆さんのお力添えを頂き、8施設などで活躍中です。ボランティア活動の素晴らしさは、自分の達成意欲が満たされるだけではありません。相手が喜んでくださる、その喜びが自分のもとに跳ね返ってくること。又、人生の大先輩からの教訓を得ることが多く、私のもう一つの財産となっています。心から感謝しています。（福祉ボランティア茲（ここ）・西山田地区福祉委員会幹事）

★緊急募集★

大阪府立介護実習・普及センター「FINE ハートケア・おおさか」

見学案内・福祉用具使用方法指導員

SA連協では、今年の総会の後、NPO を立ち上げるために種々検討を続けています。既に定款案は、名称を残して固まってきており、続いて事業計画と予算案の検討に入っています。その中で、指定管理者に名乗りをあげることが、一つの大きな柱になってくる予定です。また、福祉推進財団の方でも、我々の動きに合わせて全面的に支援する意向を示されており、その一つとして上記の「FINE ハートケアセンター・おおさか」の見学案内・福祉用具使用方法説明指導をSA連協に任せたいと、提案いただいております。事業規模はさほど大きくはありませんが、行政から指定管理者として指名されるための試金石となる事業と考えられるので、NPO の設立を待たずに取り組み、最大限の努力をしたいとするものです。具体的内容は次のとおりです。

- 勤務場所** 大阪府立介護実習・普及センター「FINE ハートケアセンター・おおさか」
茨木市大住8-11 TEL072-626-3381 FAX072-626-0876
阪急 茨木市駅から徒歩約10分
- 勤務時間** 月曜日と年末年始を除く毎日 10:00～16:00
- 勤務内容** 見学者に対し、見学受付・施設内案内・福祉用具の使用法の説明指導など。基本的には毎日1名の勤務ですが、学校等の集団で見学を受け入れる時は、2～4名の勤務をお願いすることもあります。
- 報酬** 交通費と昼食代程度
- その他** 応募して下さった方には、半日4時間の研修があります。(修了者には認定証が交付されます)。所側は1月中に研修を実施したい意向ですが、要員が揃ってからにしております。

連協の役員会・幹事会でも討議していますが、茨木市内に立地していることから、地理的に近い茨木・高槻・吹田の3地区SAを中心に(その他の地区でも希望される方があればもちろんOK)、30名程度の要員を確保し、勤務割りを組んで、一人月一回程度の勤務で済むようにしてはどうかと考えています。専攻別は問いません。やってみようと思われたいだけの方、研修を受けてみてその様子で決心しようと思われたい方、この機会に研修だけ受けておこうとお考えの方、多数の方のご応募をお待ちしています。1月中旬ごろまでに、SA吹田会長まで申し出て下さるようお願いいたします。

◆しめ縄作りを通じての交流会に参加して

奥 正昭(SA14期)

年の瀬も迫った12月15日府立千里高校2年生希望者23名と、しめ縄作りを通じて交流会を持ちました。ご多忙のところSA松井先生の出席をいただき、吹田より増山、小北、平井、奥、17期生3名が参加しました。モチ米の藁がしめ縄作りに最適だそうで、先生に能勢で調達していただき、開始前に水に濡らして柔らかくして作りやすくなりました。11時30分交流会開始、松井先生がしめ縄の歴史、種類について見本を見せながら約10分間講義され、次に作り方実演指導に入りました。初めて藁に触れる生徒たちが大部分で、先生の驚異的な速さの藁捌きでしめ縄が出来ていくのに生徒全員が声を出して驚嘆していました。

生徒2人から4人にSA一人が付き、円形のしめ縄に挑戦する。初めは、一人で作っていたが、なかなかうまく出来ないで、先生の指導で大相撲の横綱を作る要領で2人で

作ることになった。そうすると作りやすくなり時間内に1人一個の円形しめ縄が出来た。次に飾り作りに入り、半紙で御幣の作り方について指導、しめ縄に取り付け完成する。全員ができ上がったしめ縄を持って記念撮影をして交流会が終わりました。生徒はしめ縄をクラスメートに見せ、自宅の正月の飾り付けに使うそうです。

※2004国際フェスティバル

「手作りおもちゃ体験コーナー」に参加して 増山 彦一 (SA13期)

12月5日(日)万博記念公園自然文化園東の広場で開かれた吹田市国際交流協会主催の2004国際フェスティバルの「おもちゃ作り体験コーナー」に参加しました。

万博国際ふれあいマラソンと同時並行のイベントとして毎年開催されていますが、私は今年初めて参加しました。会場の広場は昨夜来の大雨で、芝生にまだ水が溜まっていて、歩くと靴に水がしみ込むような状態でしたが、天候は昨夜とは違って変わって快晴で、大勢の人が集まっていて、あちこちのテントではマラソン出場者の受付が始まっていました。私たちの「おもちゃ作り」のブースは、韓国、メキシコ、フィリピン、タイ、スリランカ等の国際色豊かなお店の一角に用意されていました。

当日のおもちゃは「ぐにゃぐにゃ凧」で、材料はSA吹田おもちゃ作り市民塾の山地さんを始め、塾の方々に準備していただきました。予定の10時前には三々五々子どもたちがお父さん、お母さんに連れられてやってきましたので、少し早めに開始しました。

作り方はいたって簡単で、ゴミ入れ用のポリ袋を変形六角形に裁断して、両端にスキの軸を一年陰干しした骨を縦にセロテープで貼り付け、両肩の部分にタコ糸をつけ、下部のところに長い尻尾をつけて、両肩につけたタコ糸の中心に長いタコ糸を括りつけてそれを引っ張って空中に飛ばすのですが、凧は風がなくて飛びません。しかし、“過ぎたるは、なお及ばざるが如し”で、その日は初めのころは凧揚げには丁度よい快適な風が吹いて子どもたちに大変好評でしたが、お昼前後から風が強くなり、一時は瞬間風速40メートル近い突風が吹いて、凧の骨が強い風に煽られて折れてしまうハプニングが多発し、その修理に追われる場面もありました。それでも一時は順番待ちの行列が出来るほどに盛況でした。少し客足が途絶えた2時半ころには、用意していただいた150個の材料も底をつき、後から来られた方にはお渡しできず、お詫びしてお引取り願いました。本部テントではマラソン入賞者の表彰が続けられていました。

その日は、子どもたちの可愛い笑顔と、マラソンで汗をかいている若い人々から元気なパワーを頂いて楽しい一日でした。参加された皆さん本当にご苦労様でした。

※障害者の輝く未来を！『梅の里ホーム』を見学 岩城 延重 (SA13期)

吹田市の障害者福祉講座の中で、12月16日は身体障害者施設『梅の里ホーム』(南海電車金剛駅下車バスで約5分)の見学会に参加しました。高齢者を対象にした特別養護老人ホーム・老人ホーム等は今まで何ヶ所か見学させてもらいましたが、障害者を対象としたホームは初めてでした。社会福祉法人「いずみ野福祉会」が運営管理する施設で、自立センター「つじやま」の施設を見学しました。

①梅の里ホーム

身体障害者療護施設：定員50名(ALS2名ショートステイ5名)：職員32名

②デイセンター梅の里

身体障害者デイサービス事業：利用定員15名

③梅の里ホームつじやま診療所

内科・神経科：医師1名・看護師1名 診療時間：月・水・金PM1:00～4:00

④つじやま作業所

知的障害者通所授産施設：定員50名・職員12名（嘱託医1名）

上記4施設が同一敷地内にあり、錦織公園に囲まれた良好な環境にあります。

つじやま隧道を抜けて左折れすると、つじやま作業所の竹炭生産の作業所があり、竹の切断作業等が始まっていました。作業をしていた皆さんは少し手を休め「おはようございます」「今日は」と元気な声で迎えてくれました。「梅の里ホーム」玄関前でバスを降りたところでも、大きな声で元気よく迎えてくれました。スリッパに履き替え手洗い室で手を洗い、うがいをしてロビーに入ったところで、施設長の井上さんから説明を受け見学に向かいました。最初に案内を受けたところは大きな吹き抜けの天井が傘をイメージした、天井の窓から光を取り入れるよう工夫された広くて明るい食堂でした。廊下も広く車椅子2台が通れる広さでした。廊下のコーナーは談話コーナーとして利用するように工夫されていました。トイレにはリフトがあり便器にかかる手すりは、使用時は邪魔にならないように短くなったり、便座は自動で開くようになっていました。9㎡の部屋には必要なところは、リフトが取り付けられてあり空調設備も万全でした。ケアステーションには職員が配置され、照明・空調等の一括管理と入居者の悩み相談等も気軽に受けられるようオープンカウンターになっていました。ALS 居室は筋萎縮性側索硬化症等の入居者への対応が出来るよう、人工呼吸器や心電図・脈拍などを継続して体調管理が出来るよう医療機器が設置されていました。浴室には水圧ポンプ式昇降リフトがあり、車椅子やストレッチャーに乗ったままで浴槽に入ることが出来、お互いに同じ目線で入浴できる銭湯のように工夫されていました。ミストシャワーが2台あり車椅子のままシャワーを浴びることが出来ます。採光窓からは坪庭も眺められます。経費節減を考えて、タオル棚には1枚80円とか、リース料金をタオルの種類ごとに記載した張り紙もありました。夏のPLの花火大会の時にはよく見える場所だとのことでした。

最後に施設長さんから入所者の毎日の過ごし方など総括的な話を聞きました。「梅の里ホーム」は自立力がつけばグループホームや福祉ホームなど少人数での地域生活に移行する、また若いうちに豊かな経験を重ね自立心を養い終の棲家としないような訓練施設を目指していることも強調していました。研修や交流なども地域に開放しているとも話しておられました。

◆◆SA吹田 活動予定表 (1月~2月)◆◆

- 1月8日(土) おもちゃづくり市民塾 北千里公民館 午前10時~12時
1月13日(木) 日本語を知らう・学ぼう・お話しよう やまびこ
伊射奈岐神社 午前10時
1月14日(金) SA吹田役員会 南千里公民館 13時30分~16時
1月20日(木) あいほうぶ もちつき大会
1月23日(日) 吹田市博物館10時~15時 おもちゃづくりと謄写版体験
1月27日(木) 北山田小学校 ブラインドウオーク・車椅子体験
1月29日(土) 出前おもちゃづくり 南千里市民センター図工室
2月13日(日) 第9回ミニ文化交歓会 亥の子谷コミュニティセンター
料理教室 9時~17時

編集後記 今年一年間活動報告を多くの方から頂きまして誠にありがとうございました。来年度もよろしくお願いたします。なお他の地区の情報は下記のシルバーアドバイザー連絡協議会のホームページ【SA連絡協議会】をご覧ください。